

第59回全国消防技術者会議の開催報告

消防大学校 消防研究センター

会議概要

平成23年10月20日（木）から21日（金）の2日間にわたり、第59回全国消防技術者会議が、東京都港区虎ノ門のニッショーホールで開催されました。この会議は、消防防災の科学技術に関する調査研究、機器の開発等の成果を発表し、消防職員や消防団員を始めとする消防関係者の意見交換の場として、昭和28年より毎年開催されているものです。平成23年は全国より、2日間で延べ781人に及ぶ消防職員や消防関係者の方などが参加しました。

会議1日目の午前には、松原美之消防研究センター所長による開会の挨拶の後、特別講演として、「想定外を生き抜く力 ～大津波から生き抜いた釜石市の児童・生徒の主体的行動に学ぶ～」と題して群馬大学大学院教授片田敏孝氏（写真1）にご講演いただきました。その後、昼休みの時間を利用して、主に一般発表の展示発表が行われ、午後には研究発表が行われました。

会議2日目は午前、同会場において「平成23年度消防防災機器の開発等、消防防災科学論文及び原因調査事例に関する表彰」の表彰式が執り行われました。表彰式では、久保信保消防庁長官（写真2）によって式辞が述べられた後、受賞者に対して長官より表彰状と副

賞の楯が手渡されました。さらに、選考委員会副委員長である本間恭二電気通信大学名誉教授による講評、次いで記念写真撮影が行われました。表彰式終了後、午前中に「消防防災科学論文」の中から3作品の発表が、午後から「原因調査事例報告」の中から6作品の発表が行われました。その後、「消防防災科学技術研究推進制度」の中で実施された研究成果について4件の発表並びに消防研究センター研究報告が行われました。また、会議2日目の昼休みには、平成23年度消防庁長官表彰受賞作品の中から「消防防災機器等の開発・改良」及び「奨励賞」の受賞作品が展示発表されました。

特別講演

群馬大学大学院教授 片田敏孝氏による特別講演「想定外を生き抜く力 ～大津波から生き抜いた釜石市の児童・生徒の主体的行動に学ぶ～」では、東日本大震災の際、釜石市で小中学生たちが率先して大津波から避難した状況並びに、その避難行動の原動力となった片田氏の釜石地区における8年間の津波防災教育についてご説明をいただき、防災に深く関わる消防関係者にとって興味深く有用な講演となりました。



写真1 片田氏による特別講演

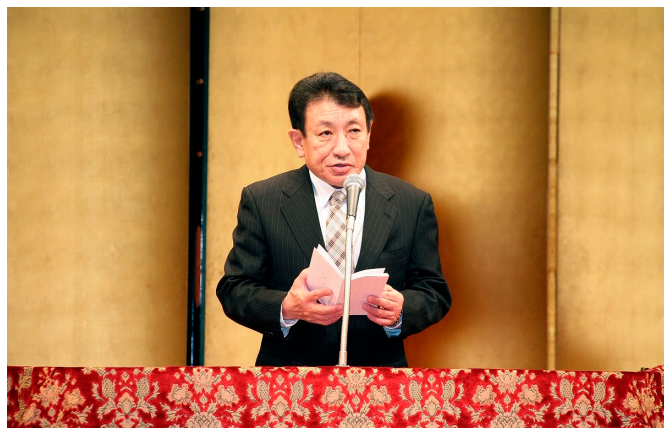


写真2 久保消防庁長官の挨拶

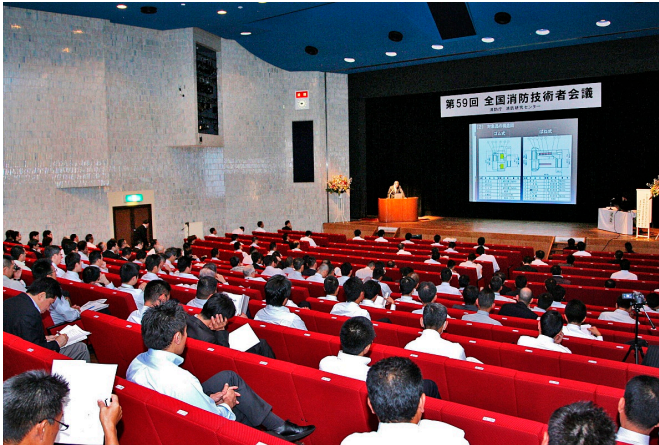


写真3 会場内の様子

研究発表

会議1日目の午後に行われた安全対策についての発表(写真3)では5件の発表があり、その中で、住宅火災における死者数低減を目的に、無炎燃焼時における一酸化炭素の発生及び拡散に関する燃焼実験に対して注目が集まりました。また、消防車両の交通事故防止に有効な乗車員間のコミュニケーション醸成方策に関する研究や残火処理活動現場等に存在する粉塵等の検証と防護方策なども関心が集まりました。機器開発改良に関する研究発表では4件の発表が行われ、その中で、火災が発生する危険性のある機械器具等に対して、メーカーや販売代理店等の協力を得て、再発防止策が講じられた事案に関心が集まっていました。引き続き、原因調査・消防戦術について6件の発表が行われ、放火火災の実態分析と放火火災を抑止させる方策についての研究発表に注目が集まりました。

会議2日目の午前の表彰式の後、平成23年度消防庁長官表彰受賞作品「消防防災科学論文」として3作品が発表されました。ここでは、急速に普及が進んでいる住宅用太陽光発電システムが設置された建物火災の消防活動における感電等様々な危険性とその対策について考察した作品に対して多くの方が興味を持ったようです。引き続き、平成23年度消防庁長官表彰受賞作品「原因調査事例」として6作品が発表されました。車両の衝突に起因する自動車用緊急保安炎筒からの出火を実験的に考察した作品及びバーベキュー用の着火剤を使用した放火火災の増加に対応するために出火箇所付近の焼残物中に着火剤が含まれているか否かを確認する方法を実験的に考察し



写真4 一般公募の展示発表の様子

た作品に注目が集まりました。その後、「消防防災科学技術研究推進制度」における研究の成果として「消防職員のストレスマネジメントシステムの開発と利用」、「圧縮気泡を用いたアルミニウム火災の消火に関する研究」ほか計4件の研究成果が発表されました。最後に消防研究センターから「消防研究センターにおける過去5年間の研究開発成果」及び「2011年東北地方太平洋沖地震による被害に関する消防の視点からの第一次調査結果について」の2件の発表を行いました。

展示発表

会議1日目の昼休みに、6件の展示発表が行われました(写真4)。消防活動用安全帯の改良を扱った作品に注目が集まりました。また、「消防防災科学技術研究推進制度」の研究開発成果から、「安全な消火活動のためのショアリング技術の開発」の展示発表が行われました。

会議2日目の昼休みには、平成23年度消防庁長官表彰受賞作品「消防防災機器等の開発・改良」の中から5件の展示発表が行われました。廃品ホースを利用した傷病者運搬用の補助用具「つかみ帯」の展示発表に関心が集まりました。

次回の第60回全国消防技術者会議は、平成24年の同時期に開催する予定としています。発表及び参加の募集並びにプログラムにつきましては、今後、消防研究センターのホームページ (<http://www.fri.go.jp/>) 等でご案内させていただきます。全国の消防職員や消防防災関係者の皆様からの多数のご応募、ご参加をお待ちしています。